

第1回ささやま医療センターの産科充実に向けての検討会会議録

日 時 令和元年7月6日(土) 19:00～21:00

場 所 丹南健康福祉センター2階第一会議室

出席委員 酒井隆明、平野斉、芦田定、小嶋敏誠、西潟弘、西田直美、太田鈴子、
土性里花、畑弘恵、松本正義、深田和泉、高瀬晶子、成瀬郁、稲川なをみ、
田村博子、稲川沙弥佳、谷岡春南、中嶋唯、

顧 問 小西隆紀

欠席委員 加古佳与子、岩田瑞希、

事務局 横山実、山下好子、吉田久仁子、堂東美穂、小西雅美、仁木秀樹

会議資料・資料1 新聞記事

- ・資料2 ささやま医療センターの産科充実に向けた検討会準備会(要旨)
- ・資料3 市内の出生状況について
- ・資料4 「安心・安全な産科医療充実に向けての市民アンケート」調査の概要
 - ・安心・安全な産科医療充実に向けてのアンケート集計
 - ・子育ていちばんのまち、丹波篠山市を目指して！
～安心・安全な産科医療充実に向けてのアンケート～
- ・資料5 産科医療の先駆的事例
- ・その他
 - ・ささやま医療センターの産科充実に向けての検討会設置要綱
 - ・兵庫医科大学ささやま医療センターの運営等に関する基本協定書

1. 開会

2. 市長あいさつ

3. 検討委員自己紹介

4. 委員長・副委員長の選任

委員長に酒井隆明氏、副委員長に土性里花氏を選出

5. 検討事項

(1) 丹波篠山市の産科医療の現状

(2) 産科医療にかかるアンケート結果

【事務局】当日配布した資料により説明

これまでの経緯について質問や意見があればお願いしたい。

【委員長】

アンケート結果から分娩できる場所がないということになれば、先が不安であるとか住みにくいといった評価につながり大変厳しい状況である。

兵庫医科大学ささやま医療センターとは、正式な協議を始めていくが、まずは、協定に従って存続と充実努めていただき、医師不足という理由は市からすれば、医療センター側の理由であって全力を尽くして医師を確保されたというふうには見受けられにくいところがあるため、そのような点を主張していきたい。

【委員】

協定を昨年結ばれたということだが、私たちは、NPO を設立中で、女性のための相談機関で篠山と三田を中心に在宅助産師としてやっていきたいと考えている。産後のケアを含めて幅広い活動を考えているところでこのようなことになってしまって残念である。

元々、医療センターは、産婦人科医がこの3月で退職されることがわかっていながら契約を締結したこと自体、医学教育を行っている病院がすべきことなのかという疑問がある。また、協定についても、協定を締結した時に産婦人科医が退職されることや、2人体制であるとか、産科医が少ないということ、助産師も少なく、本院から来てもらわないとやっていけない状況を知っていながら契約を締結したこと自体、大きな問題だと考える。

しかし、契約を締結した以上、どれだけの努力をしていただいたのかを返答いただきたいし、兵庫医科大学から大阪や姫路に研修医や先生が研修に出られていると聞いている。ささやま医療センターは直下の病院なので、医学教育の一環として、篠山のような過疎地域に医者を派遣することを研修の一環として、教育項目の中に入れていただくことを要望したい。

契約締結後の分娩休止は、言ってみれば詐欺行為であり、マスコミにオープンにすると行ってよいのではないかと思う。それぐらい憤りを感じている。

産婦人科病棟は、混合病棟で内科や老人の看護の専門の看護師がおり、看護師がそのトップとなっているため、産科専門の看護師がいない。そのしわ寄せが助産師にきており、助産師のやる気や前向きな気持ちを阻害している。そのような状況なので、産科に理解のある方がトップでがんばっていただきたい。

【委員】

どうしても、部長や医院長の考え方がシークレットになっており、医者の派遣ができないと聞いていた。それでは、兵庫医大の本院には産科医が何人いるのかという疑問があり、医療センターに来ることができる医者がいないというのであれば、大学にいる産科のドクターは今どこにおられるのかすごく疑問に思っている。一時期は、先生が産科を1人で切り盛りしていた時期があった。その時になぜ、その先生と一緒に仕事をするドクターが来られなかったのかという疑問がある。それから、医師が2名体制になり、常時2名だったのに、最近になって医師が2名でお産ができない、という話になっているので、そのことについても疑問に思っている。

確かに妊婦さんが抱えている問題というのは、今は出産される方が何も問題なくスムーズにいくというのは少ない状況があり、医師がいろんなこと、たとえば合併症とか、いつ異常がでるかかわからないから綿密に繊細に、いろいろな可能性を考えて、関わっていかないといけないから医者1人に係る負担は確かに大きくなっているのは理解できる。しかし、今まで2名で努力していただいていたのに急に2名でできないということになったところが疑問に思っているので、その理由を具体的に知りたいと思っている。チームで分娩することについては、分娩に限らず医療においてはすべてチームで行うというのは当たり前のことだと思っている。

2名体制で継続していくためには、助産師や看護師を増やせばよいのか、ベテランの助産師や看護師を増やせば良いのかそのようなところを考えていきたい。たとえば、産科医

を3名にすれば休止せずに済むのかというようなことも聞いてみたい。本当に医者数の絶対数が足りないのか、ささやま医療センターに派遣してもらえる医師がいないのか、分娩の数としては、医師が2人体制で対応していた時とかわらないと思う。それで、今2名でできないという理由がかわらない。

【委員】

医師の人数のことを考えていたが、前に準備会の時にも触れたが、最近産婦人科において、分娩を取りやめるところが増えてきている。大津市民病院も6人体制から3人体制になったことで周囲の医療機関にお願いして分娩はやめるところに6月からなった。京丹後市の弥栄病院でも、先生が亡くなられて休止していて、最近再開している。準備会の後でも、奈良県西和医療センターでも3人体制では分娩ができないということでやめている。数ヶ月だけでもこれだけ分娩休止になっており、なぜ分娩休止が増えているのかということも考えていた。関係あるかどうかはわからないが、10年ほど前に福島県立大野病院事件があった。医師が一人で手術の時の予想できない大量出血で、妊婦が亡くなった事件である。事後に調査もあり医療ミスではないかということも言われ、ドクターがいきなり逮捕されたが、結局無罪になった。そのようなこともあり医療の萎縮も関係していると考えられる。そのようなリスクを抱えるのであれば、もう少し人数の多いところで対応するという流れになってきているのかとも考えられる。

【委員】

医師が二人体制で行っているところはほとんどないのではないか。もし二人するのであれば、池田先生と同じように生活する必要がある。西脇市民病院もお産は3人体制で行っている。しかし、その3人がどういった3人かはわからない。ベテランばかりの3名なのか、研修医を含めた3名なのか。柏原病院は4人、アドベンチスト4人、済生会6人、神戸中央病院産婦人科は2人で、お産はせず産婦人科のみという現状である。

【委員】

産科に必要な医師や助産師の人数について気になることがある。

確かに医師2人体制で24時間、365日ずっと拘束されるというのは負担になる。

しかし、兵庫医科大学ささやま医療センターのお産件数は多くて月15件程度で昔の国立病院の時代から件数は変わっていないし、その時も2人でされておられた。開業されている先生も一人でされておられる方もあり、実際に兵庫医大ができないということを行っているが具体的にどう無理なのかを22日の協議で確認していただきたい。また、助産師の人数についても常勤の若い助産師が2人で、あとは本院から若い助産師さんが来ているということだが、当時の先生とお話する機会があったが、「本院から応援に来ていただくということはありがたいが、応援に来れるということは独身で若い方になり、今、常勤で働いておられる方も若い助産師なので、経験が少ない助産師にすべてをまかせるということではできない」ということだった。

そのため、少しでもベテランの助産師を雇うとかそのような努力をされているのかということや、知り合いが助産師として篠山で働きたいと思い、問い合わせをしたが募集をし

ていないというようなことがあった。そのようなことから、産科をやっていくという気がないと考えてしまう。

【委員】

兵庫医科大学ささやま医療センターからもなぜできないのか理由を直接聞く必要があるのではないか。最初からできないので、分娩を休止にするというふうに感じてしまう。今後は、他市町ではどのようにしているのかということも考えていく必要があるが、まずは兵庫医科大学ささやま医療センターでどのように産科の充実にご尽力されたかをお聞きしたい。

【委員】

タマル産婦人科で出血などの理由で転院する必要がある場合、篠山から遠くの病院に行くことを想像すると怖いと感じてしまう。そのため、兵庫医大ささやま医療センターが受け入れ先として体制を整えていただくことは可能か。

【委員】

そのような場合に備えて、地域周産期母子医療センターとして済生会病院があるため、緊急搬送が必要になれば済生会病院に行くことになる。

【委員】

地域周産期母子医療センターとはどのようなものなのか。

【事務局】

「周産期」とは、妊娠22週から出生後7日未満までの期間をいい、合併症妊娠や分娩時の新生児仮死など、母体・胎児や新生児の生命に関わる事態が発生する可能性が高くなる期間を意味しており、周産期母子医療センターでは、出産前後の母体・胎児や新生児に対する高度で専門的な医療を提供できる設備のある病院のことをいう。地域周産期母子医療センターは、済生会兵庫県病院、県立西宮病院、加古川中央市民病院、明石医療センター、公立豊岡病院、県立淡路医療センターなどがある。

【委員】

兵庫医科大学ささやま医療センターとタマル産婦人科では、分娩数では同じくらいで、タマル産婦人科の先生は一人でごんばっておられる。開業医と病院での違いはあるが、一般市民からすれば、どうして休止になるのかという疑問を抱いてしまう。アンケート結果からも第2子以降の出産となると家の近くで出産したいという生の声もあり、地域医療を支えるのは市の役割だと考える。助産師さんの雇用を促進することや、開業医に対しても補助金を出すなどの対策を考えていただきたい。

開業助産師さんは、妊婦さんに対して体重制限など厳しい指導をされるが、そのような指導のおかげで安全な分娩が可能になっている。助産師さんにもごんばっていただきたい。今後の検討についても、できないではなく、できるように考えていただきたい。

【委員】

兵庫医科大学ささやま医療センターに市から補助金を支出しているということだが、市から意見することは可能なのか。

たとえば、夜勤はアルバイトの先生を依頼する方法もあるので、そのような方法を提案できればと思った。

昔は、妊婦さんへの体重管理はすごく厳しかったと思うので、看護師や助産師を雇ってそのような指導を徹底できればよいのではないかと考える。

【委員】

対等な立場で契約をしているが、三田市のように市で病院を運営していこうとすれば、5億から10億円は必要になると考えられるので1億2千6百万円を補助金として支出しているからと言って十分かどうかはわからないし、赤字をなくしたいということも理解できるため、お願いをするという立場だと考えているし、市民の声を届けるしかないと考えている。

【委員】

タマル産婦人科では、体重管理などの指導が厳しいが、そのおかげで3人目を無事出産することができたので感謝しているが、妊婦さんの中にはその厳しさが受け入れられないという人がいたのも事実である。そのため、篠山で出産できる施設を2つ以上は確保していただきたいというのが希望である。

【委員】

人口減少による病院の統合も考えていかななくてはいけないし、病院があって当たり前ではない。

【顧問】

長い目で見ると学校と同じで、3つの高校はどうしていくのはというのは一つの流れである。

しかし、今回の件は、丹波医療センターの開設に合わせて分娩を休止するというのはどうか、ということである。現状を見ても南の病院に行くことはあっても丹波市ではないと考えている。分娩休止については、県が決めたことではなく、承知もしていない。

柏原病院を残すために丹波市の方は努力をされたと感じている。篠山市では、10年前に病院の問題があったときに篠山市民がどうだったかということを考えると丹波市ではなく、市長や議員ががんばったように感じられる。

「安全に産める場所」ということを考えると、病院と市民の考えが異なると思う。一定のリスクも考慮しながら近くで分娩したいと考える市民と、今までのように医師2名体制では安全に分娩ができないと判断して、安全な場所で分娩を考える病院とでは根本的な考え方が異なっている。

【委員】

検討会で議論することも大切だが、市民一人一人が考えることが必要で、もっと病院を利用していく必要もあるのではないか。

【委員】

以前は、研修医はアルバイトにいくことができ、地域にも研修師がいたが今はそうではなくなってしまった。そのような中で医療センターは以前と同じくらい患者数を確保しており努力をされておられると感じる。

【委員】

丹波医療センターが開設するにあたり、丹波地域の病院ではあるが丹波篠山市には恩恵が少ないと思うという意見があり、丹波医療センターの建設にあたり県から高額な補助が出たことについて真剣に考えていかなければいけないという意見があった。

【顧問】

兵庫県からは、兵庫医科大学ささやま医療センターにも建て替えのために毎年、整備支援金等を支出している。

東の方は京都にも行くし、今田の方は三田市へ、大山の方は丹波市というふうに近くの病院行くこともあり、丹波医療センターが丹波市民のためだけのものではない。三田市民病院も丹波篠山市民が受診に行くこともある。

【委員】

産科の問題についても、県から補助をしてもらえればよいと考える。

【顧問】

それは、可能かもしれないが今それを論ずるのはどうかと思う。

6. 次回日程について

【委員長】

今回は、7月27日（土）午後7時から、丹南健康福祉センターで開催しますので、よろしく願いいたします。兵庫医大学ささやま医療センターから説明に来ていただきます。

7. 閉会

土性副委員長あいさつ

終了